

4 技能中心の上智大学入試英語改革とは

—上智大学で考える—

開倫塾

塾長 林 明夫

Q：林さんはよく上智大学に行きますね。なぜですか。

A：(林明夫：以下省略)1996 年以来、上智大学公開学習センター(いわゆるコミュニティカレッジ)の学生として英語や異文化教育方法論を中心に様々な学習をしてきたからです。私は慶應義塾大学法学部法律学科の卒業生ですが、上智大学は第二の母校ともいえます。

Q：その上智大学に、今度は何をするために行ったのですか。

A：7月31日(水)に上智大学10号館講堂で開催された上智大学の2015年からの大学入試英語改革の内容を議論する「TEAPと英語教育の改革」という公開シンポジウムに参加するためです。

上智大学は2015年度から今までの大学センター入試や2次試験での英語入試を取り止め、高校3年次以上から受験が可能なTEAP(ティープ)と呼ばれ、年に3～4回全国の主要都市で行われる英語の試験で代用すると前々から聞き、注目していました。上智大学2015年度英語改革のシンポジウムがあることを上智大学のホームページで知り、申し込みをし、参加させて頂きました。

Q：エッ、林さんはホームページで参加する会議や研究会を探しているのですか。

A：全国的に注目に値すべき動きがあると推測される団体や大学にはいつも関心を払い、週に1・2度はホームページを見ています。上智大学の英語入試改革は日本の大学入試を大きく変えるものと確信していますので、私の第二の母校のような上智大学はずっと注目していました。

この動きの中心的な存在である上智大学言語教育研究センター長の吉田研作先生は、私の地元の足利市教育委員会の足利市英語教育推進プロジェクト会議会長をお務めになり、私も委員の一人として1年間、ほぼ毎月1回提言の策定を行った際、親しく、極めて多くのことを教えて頂きました。上智大学の2015年度からの英語入試改革も、その時に知りました。

今回の会議は、吉田先生が代表を務められ、日本の英語教育の改革を進める一般社団法人グローバル教育情報センター(<http://www.geic.jp>)が主催してくださいました。このセンターは極めて有意義と考え、私も早速、会員登録をさせて頂きました。

Q：TEAPという試験はどのようなものですか。

A：吉田先生を代表とする上智大学が中心となり、公益社団法人の日本英語検定協会、いわゆる英検協会とともに作りあげた4技能のバランスのとれた大学入試です。

4 技能とは R(reading、読む)、L(Listening、聞く)、S(speaking、話す)、W(writing、書く)です。(以下 R, L, S, W と略します)

従来は R と L が大学入試の中心、はっきり言えば R と L がすべてでした。しかし、日本人の英語はいつまでたっても上手にならない。かと言って、大学教養課程レベルの難しい単語が多く、箸にも棒にもかからない TOEFL は余りにもレベルが高すぎ、想像を絶する。

大学センター入試の英語で欠けている S と W を補い、難しすぎる TOEFL の中間的な試験とは何か。RLSW の能力をバランスよく育てる試験として、英語を含む言語教育で評価の高い上智大学と、英検協会とが協同開発。試行錯誤を繰り返し、満を持して 2015 年からスタートするのがこの TEAP だと私は考えます。TEAP とは、アカデミック英語能力判定試験、Test of English for Academic Purposes の略です。

Q：4 技能はどのような配点となっていますか。学校や予備校、学習塾ではどのような指導をすればよいのですか。

A：RLSW すべて 100 点ずつ、合計 400 点となっています。これからの英語の先生に求められるのは、RLSW のバランスのとれた習得を目指す指導に尽きます。

このシンポジウムで講師を務めた東進ハイスクールのカリスマ英語講師、安河内哲也先生もおっしゃっておられましたが、リピーティング、シャドウイング、音読など、基本的な訓練の導入が今後の学校や予備校、学習塾の英語教育では求められると考えます。

Q：開倫塾ではどうするつもりですか。

A：栃木・群馬・茨城に 62 校舎を展開し、約 7000 名弱の塾生のほとんどが英語を学習する開倫塾でも、RL だけではなく SW の指導を強化したく考えます。

とりあえずは、従来の学校の予習・復習や定期テスト対策、中学校・高校・大学への進学指導を継続しながら、まずは英検の確実な取得を目指したい。小学生は、全員 5 級、5 級に合格したら 4 級を。中学生は、全員 3 級、3 級に合格したら準 2 級を。高 1～3 年の英文法を習得した高校生は、高 1 生の 3 学期から英検 2 級に挑戦を。英検 2 級を取得したら、大学センター入試の 15 年分(30 回)に挑戦。併行して、日本語で学んだ小・中・高の各教科のごく基本的な内容を小学生～高校生の全学年で英語でも指導しながら、SW の訓練を実施したく考えます。日本の大学へ留学している大学生や大学院生を講師にお願いし研修をした上で、この秋から少しずつ準備し、2015 年に間に合わせたく考えます。

Q：学習塾・予備校・私立学校の経営者、幹部の先生方にお伝えしたいことがありますか。

A：下村博文 文部科学大臣は、自分は文部大臣になるために生まれてきたとおっしゃるほど本気で教育改革に挑戦なさっておられます。

上智大学の英語入試改革は、下村大臣の大学入試改革と同時併行して、大学が自らの手で成し遂げようという高い志の下に行われているものです。

自らの教え子全員に RLSW をどう正確に身に付けさせ、「英語のできない日本人」から 1 日も早く脱却するか。我々に与えられた任務、社会的責任は極めて大きいと考えます。

Q：最後に一言どうぞ。

A：「企業は原則、倒産」という激しい経営環境の変化の中で、どのように競争に打ち勝つ戦略を考えたらいいか。最も参考になるのは、やはりマイケル・E・ポーター先生の「競争の戦略」、「競争優位の戦略」、「国の競争優位」（ダイヤモンド社刊）の3冊だと考えます。

再読、再々読すればするほど、ポーター先生の一文字・一文字が身に染み、役に立ちます。

何回も読んだ方は、英語版でも読み直せばこの3冊だけで相当英語力が身に付きます。世界のリーダーの多くは、この3冊を教科書として読み込んで自分のものになっているようです。